

古代シルクロードの中間点、中央アジアの国で 日本語を学ぶ学生達への支援

アルホラズムの会 代表 田中 信義

「学ぶ、知る」 その楽しさ 「教育こそ世界の未来」
—— マララ・ユフスザイ ——

1. 寄金活動の背景

中国の西隣、古代シルクロードの中間点、遺跡と砂漠の中央アジア5か国を12年前に昔の仲間と旅をした縁で、親日国のウズベキスタンで日本語を学ぶ学生達の信じ難い苦勞を知ることになりました。

首都タシケントや「青の都」サマルカンドなどの大学で日本語を学ぶ学生は2,000人、日本の国際協力機構（JICA）から派遣の青年海外協力隊の教師や、現地の教師が教えていますが、日本語教科書は書店になく教科書が大変不足、学生はコピーして使い、持ち去り紛失も多いようです。教師用の教材も同様。留学のための試験問題集も手に入らないそうです。



ウズベキスタン略図 (Google から)

経済大国の韓国が中央アジア各国に大学創設基金を提供し、中国は経済支援や企業進出をして電気製品などが溢れているが Made in Japan は見かけません。

今、ウズベキスタンなどの若い世代は卒業後 就職の可能性がある中国や韓国へシフトを始めています。それでも日本の文化や高品質の製品に憧を抱く学生まだ多く、サマルカンド外国語大学の日本語課程応募は15倍

の倍率。定員限度まで入学し、やる気一杯で勉強をしています。



ティムールが好んだかすり模様の普段着
(シャフリサブスの遺跡で)

(註) かすり(緋)は17世紀の江戸時代に日本へ渡来

ウズベキスタンの東、天山山脈支脈が中国から延びる小国キルギスは、日本人そっくりの顔つき。高校第二外国語の多くは日本語。1,000人が日本語を学ぶ各大学は、やはり深刻な教科書不足。学生は教科書をコピーして使い、コピー代金の負担は大きい様子。

8世紀 盛唐の詩人、李白の生誕地といわれるキルギスの仏教遺跡 碎葉城(スィアブ)を訪ねたとき、3人の女子学生に会いました。3年間程度の学習で日本語を話し、漢字の読解ができることに驚きました。初めて日本人と話したと喜び、日本語の本が欲しいと言っていました。

これらの国は世界でも指折りの日本語教育国。イスラム圏ですが宗派間の抗争や、反日運動はないため日本でニュースになりません。現地の教師はこれらの実情を知って欲しいと言っています。

2. 今のうちに何とかしなければ

そこで第三の人生として、誰でもできる国

際貢献として、「千円札一枚寄金」活動を2014年に始めました。

現金を扱うので「アルホラズムの会」は任意団体登録をし、運営規約を定め代表を田中、他に幹事二人を定めています。そして年次収支報告書を作成します。

多くの知人にこの計画を伝えたところ、素晴らしい、喜んで協力、遠い国と思っていたが親日国とは知らなかった、日本人は蝸壺から出なければ、など予想外のコメントが届きました。

2017年5月末までに416人(再寄金を含む)の方々から70余万円の寄金があり、現地の教員や2015年末まで滞在した青年海外協力隊教員と相談して標準教材、易しい日本文学など343冊を贈りました。どれもよい本、すぐ役に立つ、大助かり、感謝・感激のメールが届きました。

「カネしか出さない国」といわれた日本が「カネも出さない国」の今、ささやかな寄金がこれほど喜ばれるとは。

ウズベキスタンには12の日本語教育機関があり、その教師連絡会でこの支援活動が伝わり、首都タシケントの国立東洋学大学や、フェルガナ州リシタンの「NORIKO学級」などから教材の希望が届き、対象を4機関に広げて提供を始めました。

東南アジア各国で日本人ボランティアによる児童教育活動は多いが、中央アジアしかも大学生への支援は少ないのがこの活動の特長です。

3. 「アルホラズムの会」の所以

中央アジアのホレズム砂漠地帯は、紀元前6世紀にはアケメネス朝ペルシャの支配下にあり、古代シルクロード東西交易の要衝として栄えました。「ホレズム」は「太陽の国」の意味で、華麗なイスラム建築群で世界遺産に登録のサマルカンドは年間300日の晴天が続きます。

ウズベキスタンの古代都市ヒヴァに8世紀に生まれたムハンマド・アル・ホレズミは数学者で、紀元前3世紀に古代ギリシアでユークリッドが創始した幾何学を8世紀に中央アジアで大成させた数学者です。最大公約数を

求めるユークリッドの互除法は高校数学で教わった記憶があります。世界遺産に登録されたヒヴァの城壁の前にアル・ホレズミの座像があります。代数学「algebra」、コンピューター用語「アルゴリズム」はアル・ホレズミに由来します。この「ホレズム」と「アル・ホレズミ」に因んで「アルホラズムの会」(Association Alkhorazm) としました。



数学者 アル・ホレズミの座像 (ヒヴァ)

4. 青年海外協力隊応募者と途上国無償支援の急激な減少

新聞によると日本の途上国への基礎教育支援は減少しています。

JICA 青年海外協力隊への応募も著しい減少で、1994年の11,832人が2012年は2,674人で、わずか22.6%になりました。これは途上各国からの派遣要請を大きく下回り、2014年の充足率は実に38%のありさまです。日本の外務省のレポートは途上国での日本の存在価値低下を懸念しています。

一方、中央アジアは韓国が多額の経済支援を進めて一昨年以前までの5年間は首位を続け、ドイツが2位、日本は4位に低下しています。国連事務局は日本のこれらの傾向を主要国では極端に少ないと指摘しています。

原因は、日本人若者の内向き志向とシリアなどのイスラム過激派による争乱のためでしょう。

やっと2016年度に途上国人材育成計画増額案を日本政府が提唱し、日本の首相が中央アジア5か国を訪問して17年ぶりにODA増額が決まりました。

嬉しいことに千円札寄金で贈った公式問題集を用いて勉強したサマルカンド外国語大学の女性教員が日本の文科省留学生試験の難関

をパスし、1年の語学研修後 2017 年 4 月に東京外国語大学修士課程へ進学しました。穏やかな性格の感じですが、帰国後日本語や文化を教える教授を目指すとか。

日本は若い世代のパスポート取得率が漸減を続けていますが、若い年代にアジアの国々を訪れて広い視野で文化や歴史を学んで欲しいと切に思います。

中央アジア 5 か国は、1991 年に旧ソ連から独立した若い国ですが、紀元前 4 世紀にアレクサンドロス大王が東漸してギリシアからヘレニズムを伝え、7 世紀に玄奘三蔵が仏典を求めて長安からウズベキスタンのタシケント、サマルカンドを経てインドへたどり着きました。

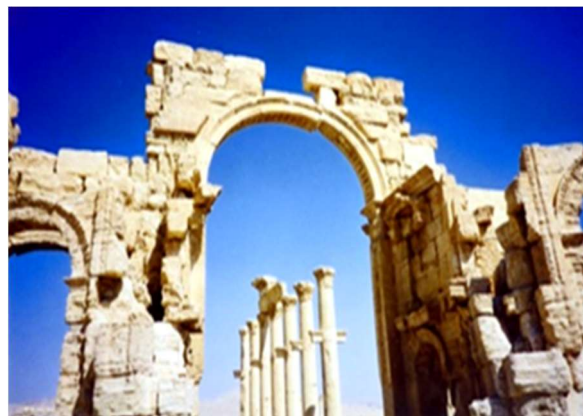
1300 年前の 8 世紀、聖武天皇の時代、奈良東大寺で仏教授戒のため五回の渡航失敗と失明にもかかわらず来日した唐僧 鑑真に随伴し、鑑真亡き後「天平の甕」唐招提寺 金堂伽藍を完成させた高僧 安 如宝 はペルシャ系民族のソグド人。ウズベキスタンのブハラかサマルカンドから日本へ渡来したといわれます。その行程には、世界の屋根パミル高原、4,000m を越える「飛雪千里」の天山山脈、熱砂のタクラマカン沙漠があり、荒れる日本海をどのようにたどったのでしょうか。

そして、昔の友人の努力で 奈良 薬師寺の山田法胤長老にお目にかかることができ、多くの参詣者から寄金を戴きました。薬師寺は 8 世紀に中国から伝来した仏教の教理を研究する南都六宗の一つで、門信徒、墓地を持たず葬儀をしない寺院です。

シルクロードの終着地といわれる奈良の薬師寺白鳳期建設の金堂本尊 薬師如来の台座には、ギリシアからユーラシア大陸西端のシリアに伝わったパルミラ遺跡のベル神殿柱頭の葡萄唐草文様や、ペルシャ（イラン）からシルクロードを伝わった蓮華文様が刻まれています。

大変残念なことに、2015 年にシリア砂漠の

人類の至宝パルミラ遺跡は、イスラム過激派によりベル神殿や凱旋門などが破壊されて瓦礫と化しました。



3 世紀に構築されたシリア パルミラ遺跡
破壊される前の女王ゼノビア凱旋門 (2001 年撮影)

上の写真は破壊される前の、シリア砂漠の交易都市、ローマ帝国と覇を競ったパルミラの女王ゼノビアの凱旋門です。

「千円札一枚」ではまとまった経済支援は困難ですが、偉大な祖先を持つウズベキスタンの若い世代に 草の根型の知的人道支援を。

そして知られざる中央アジア最大の親日国キルギスへも展開の夢を。

**「一人の若者、一冊の本、一本のペン、
一人の教師が 世界を変えられる」
—— マララ・ユフスザイ ——**

2014 年 ノーベル平和賞

2017 年 国連平和大使

(公益社団法人 日本技術士会名誉会員
情報工学／応用理学部門)

(公益社団法人 日本化学会 永年会員)

(参 考) 田中信義

『シルクロード歴史紀行 — 砂漠の彼方 遺跡と
辺境へ —』 KK ロングセラーズ (2010).